届け 世界の果てまでも

令和５年３月７日　Ｎｏ．７１　文責　校長　飯久保一男

自分らしさ

子どもが何かを親にねだるとき，「みんなもしているからやりたい」「みんなも持っているからほしい」という理由で要求することがあると思います。これは，周りがそうだから自分もそうしたいということですので，理屈で話をしていくと，そうする必要性はあまりないという結論になるように思います。理屈でうまく説明できないときに使うのが「みんなも…」という言葉かもしれません。

古来より日本には，周りとそろえようとする風潮や，違うことを避けようとする風潮があります。その傾向は海外よりも強いようです。その風潮を否定するつもりは全くありません。そもそも「学校のやくそく」は，子どもたちにそろえることを求める決まりが多くあります。集団で生活をするためにはそろえなければならない場面のほうが多いのも事実です。日本には，そういう文化がありますので，みんなと同じようにしたいという心理が働くことは当然のことです。

※「同調圧力」については，昨年度の校長通信 No.３４・３５に書いていますので，ホームページよりご覧ください。

そこで，次の言葉を考えてみてください。

> 我々は，他の人たちと同じようになろうとして
> 自分自身の４分の３を喪失してしまう
>
> ショーペンハウアー（ドイツの哲学者）

様々なとらえ方，そして考え方があると思いますが，みんながやっている，みんなが持っているということに同調していくと「自分らしさ」がなくなってしまうという意味にとらえました。

「あの人のようになりたい」という目標となる人をもつことは，自分を成長させる一つの方法だと思います。しかし，いつまでもその目標のままでは，その人に追いつくことはできても，追い越すことはできません。

あの人のような自分より，こんな自分になりたいという「自分らしさ」を目指してほしいと思っています。はじめの目標を「あの人のようになりたい」と設定することは，目標が具体的になり，目標がはっきりすることだと思いますが，その目標を目指して取り組んでいくうちに，さらにその先の目標が生まれていくことが理想だと思います。目標とする「あの人」が，とても追いつくことのできない理想の人だとしても，目標に向かって取り組んでいく途中で，自分の目標を修正する必要があると思うのです。

私は「自分らしさ」を求めていくこととは，

「自分を素直に見つめること」
「自分にできることは何かを考えること」
「自分の得意なところを生かすこと」
そして　「自分の苦手な部分や嫌な部分から逃げないこと」
だと考えています。

勘違いしてはいけないことは，自分の好きなことだけを自分のやりたいようにやることが「自分らしさではない」ということです。嫌だからやらないということは，自分らしさではありません。しかし，自分のやりたいことをやりたいようにやることが，自分らしく生きることだと勘違いしている人もいるのです。

私は，たとえ気の進まない仕事でも，たとえ押し付けられたことでも，それを自分なりに，自分のやり方でやり通すこと，心を込めてやりとげることも「自分らしさ」だと思っています。

子どもたちにとっては，特に，授業や学習をするときは「自分らしさ」が発揮できるときです。問題に対して自分の考えをもつこと，ノートに学習内容をまとめること，人の話を聞くこと…，これらに「自分らしさ」を求めてほしいと思います。掃除をするときにも，給食の準備をするときでさえも「自分らしさ」を出すことができます。

そして，「自分らしさ」を追い求めていくと，ときには，自分だけ周りと違い，一人になってしまうことや孤立してしまうこともあります。それは，子どもたちにとって，また，大人にとっても，

「恥ずかしいこと」「みっともないこと」「避けたいこと」

かもしれません。さらには，

「恐ろしいこと」

になるのかもしれません。しかし，それで「自分らしさ」をなくしてしまうのならば，一人になったとしても，孤立してしまっても，堂々と，「自分らしく」してほしいと思っています。一人一人が違う人間なのですから，周りと違うことを避けたり恐れたりする必要はありません。一人一人が違うからいいのです。たった一人でも「自分らしく」できる姿は「カッコイー」と思います。

他人と比較して，他人が自分より優れていたとしても，それは恥ではない。
しかし，去年の自分より今年の自分が優れていないのは立派な恥だ。

ラポック（イギリスの探検家）

１２月の本紙面（No. ５４）で「今の自分が自分史上最高」と題して，人と比較するのではなく，自分の中で前の自分と比べるという内容を書きました。人と比べてコンプレックスを感じてしまうことも多いものですが，自分のプラス面を見て，自分を肯定的に認めていくことが大切だと思います。

絶えずあなたを何者かに変えようとする世界の中で，自分らしくあり続けること。
それがもっとも素晴らしい偉業である。

エマーソン（アメリカの思想家）

「みんな」に影響され，「自分らしさ」を見失ってしまうときもあります。裏面にも書きましたが，「みんなと同じように…」とは誰もが思うことです。そのような中で「自分らしくあり続けること」は難しいことです。エマーソンは，それができることは「素晴らしい偉業である」と言います。

自分自身の道を迷って歩いている子どもや青年の方が，
他人の道を間違いなく歩いている人々よりも好ましく思う。

ゲーテ（ドイツの詩人）

「自分らしさ」を求めることは，迷ったり悩んだりするものです。でもその姿が「カッコイー」と思うのです。